



第30号

2~4 ひょうごコミュニティ基金(仮称)始動中!

5~7 東日本大震災支援その1  
福島の「これから」を応援する  
福島のママのおはなし

8~9 東日本大震災支援その2  
終わらない福島への応援

10~11 兵庫・神戸のNPO法人向け手引き改訂

12 カレンダー/ご入会・ご寄付お礼

認定NPO法人 市民活動センター神戸 Kobe Empowerment Center(KEC)  
〒650-0022 神戸市中央区元町通6-7-9 秋毎ビル TEL:(078)367-3336 FAX:367-3337  
E-mail office@kobekec.net URL http://www.kobekec.net

去る3月5日、郡山でNPO法人うつくしまNPOネットワーク（JNN）と合同で理事会を開き、昨年の6月から今年の3月まで派遣していた藤本職員の活動について振り返るとともに、今後の方針を話し合った。社交辞令の部分は差し引くとしても、JNNの被災者支援活動において彼が重要な役割を担ってきたのは確実と思われた。役員のお一人から、「華々しく旗を立てる割には実質的な活動がなかなか展開できない団体が少なからず見受けられる中、貴会は他団体に有用な人材を送り込むことに徹してくれた。本当にありがたい」と言つていただけたのは、何よりもうれしかった。

ご存知のようにKECは阪神大震災直後に立ち上がった救援組織から派生したボランティアグループによって設立され、今日に至つている。東日本大震災に際して何もせずにいられないのは当然だが、何をどうすればいいのかは正直苦しんだ。阪神大震災当時を思い出して、被災地のNPOとして一番ありがたい支援は何だつたろうかと実吉事務局長と振り返つてみた。すぐ的に思い当たつたのは、東京のNGOが専従スタッフ用の人材を長期で送り込んでくれたことだつた。物資や資金、現場用のボランティアは送られてくるが、最も肝心なそれらを「一ディネートする人材が圧倒的に不足することを当時の経験で痛感したし、今回もそうなることが容易に想像できた。加えて、KECには現場型の専門性もなく、距離的にも遠い東北で独自に活動するほどの組織力もないという自覚があつた。そこで、信頼できる現地のNPOに事務局を担える人材を、ある程度の期間送り込むのが一番有効かつ現実的だという結論に達するのに時間がかからなかつた。

NPOネットワーク（JNN）と合同で理事会を開き、昨年の6月から今年の3月まで派遣していた藤本職員の活動について振り返るとともに、今後の方針を話し合つた。社交辞令の部分は差し引くとしても、JNNの被災者支援活動において彼が重要な役割を担ってきたのは確実と思われた。役員のお一人から、「華々しく旗を立てる割には実質的な活動がなかなか展開できない団体が少なからず見受けられる中、貴会は他団体に有用な人材を送り込むことに徹してくれた。本当にありがたい」と言つていただけたのは、何よりもうれしかった。

ご存知のようにKECは阪神大震災直後に立ち上がった救援組織から派生したボランティアグループによって設立され、今日に至つている。東日本大震災に際して何もせずにいられないのは当然だが、何をどうすればいいのかは正直苦しんだ。阪神大震災当時を思い出して、被災地のNPOとして一番ありがたい支援は何だつたろうかと実吉事務局長と振り返つてみた。すぐ的に思い当たつたのは、東京のNGOが専従スタッフ用の人材を長期で送り込んでくれたことだつた。物資や資金、現場用のボランティアは送られてくるが、最も肝心なそれらを「一ディネートする人材が圧倒的に不足することを当時の経験で痛感したし、今回もそうなることが容易に想像できた。加えて、KECには現場型の専門性もなく、距離的にも遠い東北で独自に活動するほどの組織力もないという自覚があつた。そこで、信頼できる現地のNPOに事務局を担える人材を、ある程度の期間送り込むのが一番有効かつ現実的だという結論に達するのに時間がかからなかつた。

去る3月5日、郡山でNPO法人うつくしまNPOネットワーク（JNN）と合同で理事会を開き、昨年の6月から今年の3月まで派遣していた藤本職員の活動について振り返るとともに、今後の方針を話し合つた。社交辞令の部分は差し引くとしても、JNNの被災者支援活動において彼が重要な役割を担ってきたのは確実と思われた。役員のお一人から、「華々しく旗を立てる割には実質的な活動がなかなか展開できない団体が少なからず見受けられる中、貴会は他団体に有用な人材を送り込むことに徹してくれた。本当にありがたい」と言つていただけたのは、何よりもうれしかった。

ご存知のようにKECは阪神大震災直後に立ち上がった救援組織から派生したボランティアグループによって設立され、今日に至つている。東日本大震災に際して何もせずにいられないのは当然だが、何をどうすればいいのかは正直苦しんだ。阪神大震災当時を思い出して、被災地のNPOとして一番ありがたい支援は何だつたろうかと実吉事務局長と振り返つてみた。すぐ的に思い当たつたのは、東京のNGOが専従スタッフ用の人材を長期で送り込んでくれたことだつた。物資や資金、現場用のボランティアは送られてくるが、最も肝心なそれらを「一ディネートする人材が圧倒的に不足することを当時の経験で痛感したし、今回もそうなることが容易に想像できた。加えて、KECには現場型の専門性もなく、距離的にも遠い東北で独自に活動するほどの組織力もないという自覚があつた。そこで、信頼できる現地のNPOに事務局を担える人材を、ある程度の期間送り込むのが一番有効かつ現実的だという結論に達するのに時間がかからなかつた。

私たちは今後も、現地のNPOの支援と強化を通じて被災者の生活の立て直しと復興に少しでも貢献できたらと考えている。KECが現在までこの地域で行つてきたことを当地でも続けていくということだ。とはいっても、福島の被災者の状況は多様である。現地での支援と並行して、兵庫県内避難者を支援しているグループ同士、横のつながりを強めるような活動も必要であり、今後はそちらにも力を入れていきたい。

今回の震災に際しても、様々なNPOが被災地に生まれ試行錯誤していると聞く。当面の資金は何とかなつていても、来年頃には、援助組織やNPOにとつての「震災バブル」は相当下火になることが予想される。だからと言つて、活動の必要性が急速に減るはずがない。その時こそ、組織としてのNPOの真価が問われ始める。被災の性格や規模、それに伴う時間的なスパンの違いこそれ、大きな流れには阪神大震災の際と共通するものがあるに違いない。「学ぶべき経験」は私たちの内にすでにある。謙虚な姿勢と冷静な洞察こそがそれを可能にするに違いない。

●ママたちの悩み

子どもたちの不安

鈴木・私の場合、自分の子どもが大学生として県外で生活をしていましたので、小さい様子を少し客観的に見ることができたかなと思います。まざまな情報が飛び交いました。お母さんたちは子どもたちを守るために、外出時は長袖、長ズボンを着せ、マスクを着け、帽子をかぶらせました。たとえ東北でも、真夏にその格好で登下校をするのは相当つらかったはずです。ほかにも学校の水道水は飲まないよう水筒を毎日持たせたり、給食はあるけれど、福島産米を使ふ飯だけ持参するとか、食べるものの一口にでも気を遣うようになつて、「放射性物質」という目に見えない恐怖と闘いながら、でも普段と変わらず仕事を生活も続けなくてはならぬいような状態でした。

した。いろんな情報があつて、敏感なたもいれば、そうでないかたもいて、かなり幅がある。「そんなこと気にしているの?」と言わるのが嫌で、自分の正直な気持ちを口にすることが憚られるようになります。さまざまな考え方、学校の方針、報道されるニュースのなかで、夜中にふと目が覚めて不安になつて、でも子どもには不安な顔は見せたくないから、八つ当たりの矛先は夫で(笑)。

## ● 蟹島にとどまる覚悟

した。さまざまなお考え方、学校の方針、報道されるニュースのなかで、夜中にふと目が覚めて不安になつて、でも子どもには不安な顔は見せたくないから、八つ当たりの矛先は夫で(笑)。

首藤：6月ぐらいまでは、毎日、葛藤が続きました。放射

不安な気持ちでいっぱいの人や、夫婦喧嘩が絶えないとか離婚の相談が増えたという話も聞いています。

## ● 大人の責任に向きあう

A black and white photograph showing five individuals in a workshop or classroom environment. They are seated around a long table covered with various items, possibly tools or materials. The people appear to be engaged in a collaborative activity, such as a craft project or technical training. The room has large windows in the background, and the lighting is somewhat dim, creating a focused atmosphere.

神戸市内の子育て支援団体との交流も

線量の値を調べて、我が家が低線量地域であること、食べ物に気をつけて免疫力を上げる生活を心がけ、外に出る時間や場所を工夫して、ここで生活していくことを決心することができたのは8月ごろで、しようか、それを自分で決めたことでようやく日常を取り戻していくようになりました。子どもたちの様子や自分の気持ちが少しずつ落ち着いて、夫も協力してくれ、福島で

鈴木・福島に残ることにも  
覚悟が必要だけれど、県外へ  
避難する方も相当の覚悟があ  
つたことと思います。家をどう  
うするのか、子どものこれから  
の生活をどう守っていくのか、  
避難した先でゼロからスター  
トすることは想像以上に大変  
だつたはずです。覚悟を決めて  
福島を離れた人たちを非難す  
るようなことはあつてはなら  
ないと思つています。

首藤…小学6年生の長男  
は陸上と水泳とソフトボーラー  
だけが生き甲斐なんですが  
(笑)、事故の後、水泳の授業も  
運動会もなくなり、がんばる  
機会を全て奪われました。3  
歳の次男はこの1年間、平日  
はほぼ毎日、屋内での生活を  
強いました。事故処理の  
方法が確立できていないもの  
をつくつてしまつたのは大人  
の責任です。電気のおかげで便  
利な生活を享受してきました  
今すぐ全てを廃止することは

したりする子も増えました。他の学童保育でも同じような悩みを抱えています。エアコンやゲームやお菓子がたくさん寄せられた学童保育もあると聞きましたが、子どもにとつて本当に必要なものを与えてあげることができなくなつてしましました。

やつていける、福島にとどまる」と決めてよかつた、と納得できるようになりました。それでも原発に何かあつたらすぐに避難できるよう、スーツケースの荷物は詰めたままにしていました。私と子ども2人だけ（笑）。荷物をようやく全部ほどいたのはお正月になつてからでした。自分は覚悟を決めること

難しいかも知れない。でもつくなってしまった大人の責任として、徐々に減らしていくかなく思っています。福島だけではなく、みんなの問題として、この経験を伝えていきたいと思っています。

### ● これからの福島を支えたい

鈴木・同じ福島県内でも震災の影響は全く異なります。内陸にある郡山市は地震の被害そのものは大きくありませんでしたが、放射線量の値が少し高いので、特に小さい子どもを持つていてお母さんは苦しい思いをしなくてすみました。安全神話と言われてきたけれど、大人の責任として、もつともっと真剣に考えなくていかなくてはなりません。毎日「覚悟」を決めて生きているとお話ししましたが、心中では「原発がなかつたら…」という思いでいっぱいです。起こつてからでは遅いんです。一人ひとりが、今こそ我が事として考えていかなくてはならない問題だと思っています。

鈴木・福島原発の事故がなれば、一人の親として、こんなに苦しい思いをしなくてすみました。安全神話と言われてきたけれど、大人の責任として、もつともっと真剣に考えなくていかなくてはなりません。毎日「覚悟」を決めて生きているとお話ししましたが、心の中では「原発がなかつたら…」という思いでいっぱいです。起こつてからでは遅いんです。一人ひとりが、今こそ我が事として考えていかなくてはならない問題だと思っています。

雑な思いを汲みとる余裕を持つていられたらと思います。

なかなかその余裕を持つことが難しいのですが…。

首藤・私たち子どもたち

を守ることに必死ですが、子どもがいないかたや年配のかたの中には「私たちは大丈夫だから」とか「もうトシだから放射線量なんて気にしなくていいんだ」とおっしゃるかたもいます。でも、大人にだつてそぞれの人生があるし、長生きしてもらいたい。子どもだけじゃなく、おじいちゃんおばあちゃんも含めてみんなが元気にならないと。行政も、動きが遅いと非難されながら、それ

ぞれに家族や生活がある。みんな疲れているのかもしれない。これからは心を元気にしていく活動が必要ですね。

話・首藤亜希子、鈴木美礼

構成・入江陽子

たは気づいてくださることがとても心強かつたです。福島で生きていくことを決めた人た

ちに寄り添っていくことはも

ちろんですが、福島を離れて生活をしている人たちを心か

ら応援していますし、これからもずっと、ずっとつながってい

たいと強く思っています。福島を支えていきたいという気持ち、それだけです。

首藤・子どもが大きくなつたとき、福島出身ですと言えます。さまざまな生き方がいる限り、ココネット・マムとして支援していきたい

たとき、福島出身ですと言えます。さまざま

ないよう生き方をさせたくないと思っています。さまざま

な理由から福島で暮らしきる人がいる限り、ココネット・マムとして支援していきたい



## 東日本大震災支援 その2

### 福島への応援は終わらない

KECスタッフの藤本高英です。会員や寄付者のみなさん、そして市民活動の仲間たちに支えられ、昨年6月から9ヶ月余りに及ぶ福島での震災支援活動に従事し、この4月に神戸に帰つてまいりました。現地での活動については前号(第29号)でもお伝えしていますが、あらためて福島で感じたこと、そして今後の福島への支援について、率直にお話しします。

#### ■被災し続ける福島

るとか、多額の賠償金をも  
らっているんだろうとか、そん

な声が聞こえてきたりもしま  
す。しかし警戒区域・避難区  
域では、住民も行政も含め、全  
ての事故から、復興という議論  
さえむなしくなるよう、そ  
んな状態のまま1年が過ぎま  
した。人々の生活に目を向け  
れば、確かにそこにはごくごく  
普通の日常のようなものがあ  
る。外を歩く人にマスク姿はほ  
とんど見かけません。それは  
安全だからではなく、間違い  
なく見ないふりをしているの  
です。気にしようと思えばど  
こまでも様々な資料を読み込  
んで夜も眠れなくなるのです。  
原発を誘致した町がごねてい

#### ■福島の抱える六重苦

福島の被害は、地震・津波・  
原発に加え、風評・風化・消  
費であると言われています。例  
えば「風評」は、県外だけでは  
なく県内でもみられます。私

が仮設住宅支援に携わってい  
たとき、有機農業を営む農家  
の支援に迫われているのが現  
状です。このように、福島に住  
む人すべてが、考え方によって  
は立地の仮設にお住まいのか  
たために移動販売を行った  
いというお申し出をいたい  
たことがありました。やはり  
「福島の野菜は…」と気にされ  
います。福島は、今も毎日被災  
しています。福島は、今も毎日被災

いる状況に対してもだんだん興  
味を失つたり、東日本大震災  
の記憶を過去の出来事として  
しまつたりすることです。もう  
一つは、福島県民が避難のた  
め福島を離れ、避難した先の  
土地に根付き、その過程でふ  
るさと福島を忘れていくとい  
うような意味です。あるとき、  
浪江町から避難されてきたか  
たがこうおっしゃいました。故  
郷を失うということの絶望と  
いうのは他にはない。コミュニ  
ティの大切さとは、仲の良いも  
のの同士だけの話ではない。仲が  
しそう?これには二つの意味  
があります。一つは福島の外に  
いる人たちが、福島の置かれて  
いる立地の仮設にお住まいのか  
たのために移動販売を行った  
いというお申し出をいたい  
たことがありました。やはり  
「福島の野菜は…」と気にされ  
る声があり実現できませんでした。  
その農家グループは「無  
理に買ってってくれ、食べててくれ」  
ではなく、「気にするのは仕方



郡山市内に避難している富岡町民自身による「ふくしま絆カフェ富岡」にはふるさとの現状(写真)や町民同士が互いの思いを綴る「絆ノート」が置かれている

だと思う。そのコミュニティが記憶から薄れていく喪失感、目の前のことと精いっぱいな日常にふと故郷を思うとき、自分の中の風化が怖い、と。

「消費」については、悲しいことですが、東日本大震災という惨事につけこんだ便乗商法や詐欺は数知れず存在します。福島の復興や原発問題のがあらゆるところで消費されようとしている感じることもあります。何が本当に良いのか、悪いのか?その行為のベクトルが、被災された方や自治体への支援に向けられています

とです。が、東日本大震災という惨事につけこんだ便乗商法や詐欺は数知れず存在します。福島の復興や原発問題のがあらゆるところで消費されようとしている感じることもあります。何が本当に良いのか、悪いのか?その行為のベクトルが、被災された方や自治体への支援に向けられています



みなし仮設(借上住宅)に入居した避難者への情報提供・交流のため市内大型スーパー等に設置された「ふるさと絆情報ステーション」

「離れていてもできる」と  
「福島を応援する」ことについて、一つは現地に赴いての支援活動がありますが、私たちが暮らしているそれぞれの地域でも、できることがあります。それは、福島から避難されたかたは、公的に把握されている数として約6万2千、そのうち最も多いのは隣

県の山形で1万2千人となっています。兵庫県には約550人が方々が避難してこられたようですが、「福島の避難者は、家族が離散しているケースが非常に多くみられます。例えば前述の浪江町では、震災前には人口2万1千人、7千世帯であつた町民が、鳥取と和歌山を除く全国各地に避難し、さらに親の就労や子どもたちの教育、あるいは住居スペース等の理由から、家族が離れ離れになり、町が所在を把握しているだけでも1万5百世帯への分裂がおこっています。

そうした避難者のかたがたは、先行きの見えない将来、家族がばらばらになってしまつて、新しい土地に馴染めるかということなど、多くの不安を抱えています。避難者同士の交流などを支援しているNPOやボランティアグループもあります。個人情報保護の壁から、避難されてきたかたがどこに住んでいるのかを全て把握する

るか?そういう観点でしつかりと見定めていかなくてはと思います。もちろん、避難されたかたのなかには、さまざまなものから、福島出身であることを打ち明けたくない、または周囲との交流をあまり望まない、というかたもいらっしゃるかもしれません。でももし、福島からの避難者のかたを見かけることがあれば、まずはそつとお声をかけてみていただきたい。そして地域の社会福祉協議会や市民団体、また私たちKECのようなNPOとのご縁を持つないでいただければ嬉しいです。

(文:藤本高英)

## ■これから必要な応援

福島の問題の複雑さ、支援の難しさを、福島に関わる多くの人間が感じています。だからと言つて目を背けることはできません。複雑さ、難しさを自分たちなりにわかりやすいようにまとめてしまいたくも

のが難しく、本当に困っている人に必要な情報が届いているかどうかが大きな悩みとなつています。もちろん、避難されたかたのなかには、さまざまのが難しく、本当に困っている人が何を常に考え、実践し続ければ、私たちができる支援とそれが、被災者支援ではないと思いません。被災者は「人」であり、それぞれに抱える状況が違います。これからは個々に寄り添う支援がますます必要になります。だからこそ、NPOが持つ柔軟さを生かしながら、私たちができる支援と見かけたことがあります。そこで、福島への支援を続けるNPOに対し、皆さんの息の長い応援を心からお願いしたいと思つて、皆さんの息の長い応援を続けていきたい。そして、福島へ支援を続けるNPOに対し、心からお願ひしたいと思つて、皆さんの息の長い応援を続けていきます。

# NPOの活動がより自由に！豊かに！

～兵庫県・神戸市のNPO法人向け「手引き」が改訂されました！～

NPO法人の皆さん、次の問い合わせをちょっと考えてみてください――

- ①総会向けの「事業報告書」とは別に、所轄庁向けの報告書を毎年作り直すのが普通だよね？
- ②所轄庁の「手引き」にある「様式例」の形式に従った報告書を作らないといけないよね？
- ③活動計算書（または収支計算書）は、定款にある事業ごとに区分しなければならないよね？
- ④NPO法人としての情報公開は、所轄庁に対してするものだよね？

さあ皆さん、いかがでしょう？

こういったことに大きく影響する「NPO法人設立・運営の手引き」（兵庫県・神戸市版）が、この春、改訂されました。NPO法の改正に合わせて改訂された所轄庁としての「手引き」ですが、（特活）シーズ加古川が中心となり、県内23のNPO支援組織と所轄庁が力を合わせて作り上げたものです。全NPO法人必読の内容を紹介します。

※全文がインターネットでご覧になります

⇒ [http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/v-hyogo/info/v\\_3\\_1/tebiki-moku.html](http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/v-hyogo/info/v_3_1/tebiki-moku.html)

## ◆多様な「手引き」が 出発点

NPO法人の設立や運営

に必携の「手引き」ですが、

この4月の改正NPO法施行

に伴い、全国で改訂され

ました。兵庫県の場合は、

4月から神戸市が所轄庁になつたこともあって、県・神戸市・県内のNPO支援組織の協力のもと、改訂作業が進みました。

元々は「NPO法人会計基準」策定の際に、（特活）シーズ加古川さんが、他の「手引き」はどんなだろうと全国48所轄庁の「手引き」をすべて集めたのが発端です。「こんなに多様だとは想像していませんでした。いろいろ工夫の余地は大きいと実感しました」（シーズ加古川事務局長・柏木登起さん）。

ちょうど全国で「新しい公共支援事業」が始まるうとしていた時期でもあり、公募に対してこの「手引き

◆本当に画期的なのは：何より画期的なのは、実務に役立つことを心がけ

る一方で、NPO法人に

改訂プロジェクトを提案され、県からの委託事業として実施されたのです。

なくなく具体的に「手引き」

## ◆「手引き」というより ガイドブック

「事業報告書は、法で様式が定められているわけ

はありません。（中略）自

分たちの活動をどのように伝えれば市民にとってわか

りやすく伝わるのかを考え

ながら、法人ごとに創意工

夫しましょう。（中略）本

来は総会で承認された事業

報告書こそ、法人にとって

正しい事業報告書であると

いえます。総会で承認され

た事業報告書を所轄庁へ提

出しましょう」（69頁）。

このようない説明の後に、報告書に必要な項目・内容の例や、「工夫ポイント」として書体やグラフ等につ

いても具体的なアドバイスがあり、事業報告書の具体

容も示されています（70頁）。

また、会計については、第4章が丸々充てられ、60頁を割いて、基本から「NPO法人会計基準」に至るまで懇切丁寧に説明されています。元の「NPO法人会計基準」では4種類のパートナーで説明されているのが、それではまだ分かりにくいと、ここでは5つのパートナーで説明するという徹底ぶりです（137頁）。この章はNPO会計支援センターの荻野俊子さんの力なしにはできませんでした。

冒頭のクイズの答ですが、

会計基準

います。第3点はともかく、これまで事業・決算報告の作成方法は明文化されないまま指導されてきましたが、これらのことが明確にされたのは画期的なことと言えます。

そもそも「手引き」って？  
名称はさまざまで、全国の所轄庁にはNPO法人の設立や運営のガイドとなる「手引き」というものがあり、広く使用されています。ごく事務的に手続きをまとめたものから、運営のガイドブック的な要素を取り込んだものまで内容もさまざま。デザインも色刷りで図表を多用したものもあり、4種類の「手引き」は実際に多様でした。

○「所轄庁に提出する事業報告書＝総会で承認された事業報告書」でよい。  
○「会計＝定款の事業項目ごとの区分」は必須ではない。  
○NPO法人の「報告」の主旨はあくまで市民への情報開示である。

ということが明確になつて

いました。60

これまで事業・決算報告

◆これまではどうだった？  
従来兵庫県では、「手引き」に示されている事業報告書のフォーマット（様式例）に多くの法人が縛られ、せつかく社員総会で充実した事業報告書を作成してい

るのに、所轄庁に出すためにわざわざそれを簡略版に作り替えていたという、なんとももつたない事態も

多く見られ（ほとんどの法人がそうされているようです）、NPOとしての情報公開のための制度であるはずが、趣旨としておかしいの

形ですが、県・神戸市・23のNPO支援組織が大きな連合を組み、その中核をNPOが担いました。

文字通りの「協働」プロジェクトを実現されたシーザ加古川さんですが、成果

物の出来栄え以上に嬉しかったことがあります。「協働が実現したこ

ともそうですが、この事業を通じて中間支援組織同士

の意見交換やネットワーク

が活発になったこと、NPO

支援組織としての意識が高まつたことが一番の手応え

でした」（柏木さん）。

全体の「意見交換会」が3回、その中の有志による

「プロジェクトチーム」が計

◆プロセスも見てほしい！

この改訂版「手引き」に

ついて、もう一つ画期的だったのは、内容もさることながら、その制作プロセスです。

県からの委託事業とい

う形ですが、県・神戸市・23

のNPO支援組織が大きな連合を組み、その中核をN

POが担いました。

文字通りの「協働」プロ

ジェクトを実現されたシーザ加古川さんですが、成果

物の出来栄え以上に嬉しかったことがあります。「協働が実現したこ

ともそうですが、この事業を通じて中間支援組織同士

の意見交換やネットワーク

が活発になったこと、NPO

支援組織としての意識が高まつたことが一番の手応え

でした」（柏木さん）。

全体の「意見交換会」が3回、その中の有志による

「プロジェクトチーム」が計

ストでの無数のやりとりと、とても「濃い」プロジェクトでした。私もこのプロジェクトチームの一員に加えて

戴きましたが、活発な議論がいつも楽しく、参加できて幸せでした。

全国でも評判になりつつあるこの改訂版「手引き」。

今度はこれを使いこなし、NPOの側が問われる番のようです。（文・実吉 威）



さっそく増刷も検討されるほど、全国でも話題に！

# ■ ■ ■ K E C カレンダー (2011.12.1～2012.3.31) ■ ■ ■

## 1. NPO 支援事業

### (1)NPO 経営支援事業

◎認定 NPO 法人事前相談事業を神戸市より受託(新規)(4/1～)

### ◎認定 NPO 法人チャレンジ講座事業

【開催】フォローアップ講座：12/3、12/17

【講師派遣】12/4 篠山、12/14 宝塚、1/16 徳島、2/3・3/3 滋賀、

2/19-21 島根、2/24 高知、2/25 香川

3/28 平成 24 年度新しい公共支援事業プレゼンテーション

### ◎神戸市アドバイザー派遣・センター事業 (KEC 担当分のみ)

S-pace : 12/16、1/24、2/9、FMYY・FACIL : 1/22、2/12

平成 23 年度報告会(3/23)

### ◎その他の支援事業

1/26 伝えるコツセミナー @ 電通関西支社(参加者 61 名)

### (2)ネットワーク事業

#### ◎ひょうご市民活動協議会(HYOGON)事務局

12/12 HYOGON カフェ(3.11 復興塾との合同開催)

1/12 賀詞交歓会

### (3)拠点提供事業

#### ◎神戸元町 NPO ポート事業

2/29 DEFC 様 ポートより退去、入居団体数 3 となる

## 2. NPO のための資源仲介事業

### ◎ひょうごコミュニティ基金創設事業

検討会(1/13、1/25、2/2、2/15、2/22)

2/11 内部学習会@KEC 講師：鵜尾雅隆氏

(日本ファンドレイジング協会) 参加者 9 名

3/28 平成 24 年度新しい公共支援事業プレゼンテーション

### ◎資金循環および情報発信力向上事業

3/20 平成 24 年度新しい公共支援事業プレゼンテーション

### ◎市民ファンドの共同広報事業

2/10 第 1 回学習会@神戸市立青少年センター(講師：鵜尾雅隆氏)

参加者 16 名

2/13 第 1 回運営委員会@神戸市立青少年センター 参加者 15 名

3/21 平成 24 年度新しい公共支援事業プレゼンテーション

3/27 第 2 回運営委員会@神戸市役所 参加者 16 名

### ◎神戸文化支援基金事務局

平成 24 年度助成事業を公募

2/14 助成先選考会・理事会

## 3. 調査研究、政策提言事業

### ◎ひょうご NPO 研究会 (HYOGON 主催)

研究会(12/16、12/21)、公開学習会(1/28)、

ワークショップ(2/18)を開催

3/28 平成 24 年度新しい公共支援事業プレゼンテーション

### ◎機関誌「みみずく」発行事業

12/1 第 29 号発行

## 4. 東北支援事業

### ◎職員派遣(藤本)

うつくしま NPO ネットワークで支援事業に従事(～3 月 31 日)

### ◎被災地 NPO 応援基金

1/10 第 2 次助成金支給(NPO 法人コーヒータイムへ 40 万円助成)

### ◎集会・ネットワーキング

1/21 ミニご恩返し PJ 会議(長谷部 治さんを囲んで)(参加者 15 名)

2/17 「福島でママを支援する 福島のママのおはなし

(ココネットマムさんを囲んで)」(参加者 44 名)

2/18 子育て支援 NPO の交流会(同上)(参加者 7 団体・15 名)

### ◎その他

3/5 KEC 理事会を福島で開催

3/6 現地視察

## 5. その他の事業

### ◎JICA 地域別研修事業

3/26-4/28 「災害に強いコミュニティ作りに向けたポランティア・

マネージメント」実施

## ご寄付、ご入会をいただいたみなさま

(個人／団体別、都道府県／地域別、敬称略、2011年11月1日～2012年3月31日受付分までを記載)

**東日本大震災被災地**

**NPO 応援基金**

**【個人】**

**東京都**

平戸 潤也

神奈川県

柏谷 史朗

横尾 義春

埼玉県

中村 光一

大阪府

上田 法穂

本城 久典

兵庫県

田中 徹夫

泉 比登美

秋山 幸宏

金子 義輝

出口 健治

実吉 一夫

島根県

清水 久仁子

岡山県

中野 悅

中野 郁子

小野 絵美

高知県

竹内 律

**地域不明**

ニシイケヨウイチ

**【団体】**

近畿

株式会社

アースディ神戸

実行委員会

**一般のご寄付**

**【個人】**

東京都

長沢 恵美子

島田 京子

神奈川県

大野 圭子

柏谷 史朗

大阪府

角谷 陽子

早瀬 昇

京都府

室崎 益輝

村田 和雄

中川 弘子

兵庫県

木下 功

石岡 崇

狩野 育子

吉野 太郎

土肥 直紀

林 康子

山崎 啓子

鹿島 節子

日下 大器

掛水 すみえ

岡山県

三上 刚史

福岡県

新村 珠美

※匿名希望 2 名

※匿名希望 4 名

**【団体】**

株式会社

男女共同参画センター

横浜北

大阪府

1/26 伝えるコツ

セミナースタッフ一同

すま・はまの会

フンク・カロリン

### 賛助会員【個人】

神奈川県

細田 衛士◎

滋賀県

尼川洋子

大阪府

角谷 陽子

原田 昭子◎

阪口 春彦

京都府

村田 和雄

後藤 才正・路子◎

奈良県

桂 良太郎

兵庫県

杉田 哲

山下 邦雄

長嶋 弘之

芝崎 信子

空野 仁志

菅 磨志保

掛水 すみえ

芦谷 恒憲

浪越 千恵

島根県

渡辺 万里子

広島県

フンク・カロリン

### 福岡県

新村 珠美

※匿名希望 1 名

### 賛助会員【団体】

兵庫県

(特)ひょうご・まち・くらし研究所◎

(特)KOBE ふれあいの会

(特)拓人こうべ

(特)ひょうごセルフヘルプ支援センター

(特)神戸コグエイ芸術教育研究所

(特)アイアネット

### 利用会員【個人】

東京都

秦野 八重

兵庫県

小林 正平

沖縄県

鶴田 厚子

### 利用会員【団体】

(特)兵庫県腎友会

(特)知的障がい児者療育サポートセンター くれよん

(特)すまみらい

(特)知的障がい者支援ネット姫路

(特)しらゆり会

(特)市民サポートセンター明石

◎: 2 口

ご寄付・ご入会・ご継続ありがとうございました! みなさまからのご期待に応えるべく、一同努力してまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。